舌に発生した紡錘細胞脂肪腫の 1 例

道念正樹・村上有二*・高野昌士
鈴木豊典・飯塚 正**・戸塚靖則

A case of spindle cell lipoma of the tongue

Masaki DONEN · Yuji MURAKAMI* · Masashi TAKANO
Toyonori SUZUKI · Tadashi IZUKA** · Yasunori TOTSUKA

Abstract: A case of spindle cell lipoma of the tongue is presented. The patient, a 71-year-old man, had a painless swelling of the tongue. Physical examination revealed two discrete, tender masses in the left ridge of the tongue. These masses were removed surgically. Histopathologically, they consisted of small groups of mature lipocytes separated by spindle cells and of stroma to composed of bundles of collagen fibers and mucinous materials. The spindle cells had a single fusiform nucleus. The histopathological diagnosis was spindle cell lipoma. Spindle cell lipoma commonly arises in the posterior neck, upper back, and shoulders and is extremely rare in the oral cavity. Only nine cases have been reported in the literature.

Key words: spindle cell lipoma (紡錘細胞脂肪腫), tongue (舌), lipoma (脂肪腫), spindle cell (紡錘形細胞)

緒言

紡錘細胞脂肪腫は1975年に Enzinger¹⁾ らにより提唱された脂肪腫の特殊型で、中年男性の肩部や背部、頸部皮下に好発し、組織学的には成熟脂肪細胞と紡錘形細胞の混在ならびに膠原線維の増生と粘液基質を伴う像を特徴としている。本腫瘍の口腔内での発生はまれであり、現在までに9例^{2~9)}が報告されているにすぎない。われわれは舌に発生した紡錘細胞脂肪腫の1例を経験したので、若干の考察を加えて報告する。

症 例

患 者：71歳，男性。
初 診：1997年12月■日。
主 訴：左舌側縁の腫脹。
既往歴：特記事項なし。
家族歴：特記事項なし。
現病歴：1997年10月頃，偶然，左舌側縁の腫脹を自覚し

某歯科医院を受診した。同医院で経過観察を行っていたが、症状に変化がないため、紹介により1997年12月15日[]を受診した。

現 症：

全身所見：体格中等度，營養狀態良好。

口腔内所見；左舌側縁にび慢性の腫脹を認め、粘膜下にやや黄色味をおびた類球形の境界明瞭な軟らかい腫瘤を近遠心的に2個触知した。腫瘤の近遠心径は2個合わせて18mmであった(写真1)。

臨床診斷：左舌側緣部腫瘍。

処置および経過：1998年1月■日局所麻酔下に生検を施行した。病理組織学的に紡錘細胞脂肪腫の所見が得られ、1998年1月■日、全身麻酔下に腫瘍摘出術を施行した。腫瘍の大きさは15×10×5 mm大で、菲薄な線維性被膜に囲まれ、周囲組織と癒着なく、境界明瞭であった。腫瘍の断面は淡黄色で脂肪様であった。現在、術後2年1か月が経過したが、再発もなく経過良好である。

北海道大学歯学部口腔外科学第二講座
(主任：戸塚靖則教授)

*総合病院釧路赤十字病院歯科口腔外科
(主任：村上有二部長)

****北海道大学歯学部口腔病理学講座**
(主任：向後隆男教授)

Department of Oral Surgery II, School of Dentistry,

Hokkaido University (Chief: Prof. Yasunori Totsuka)

*Department of Dentistry and Oral Surgery, Kushiro
Red Cross Hospital (Chief: Yuji Murakami)

****Department of Oral Pathology, School of Dentistry,
Hokkaido University (Chief: Prof. Takao Kohgo)**

受付日：平成11年12月 8 日

写真1 初診時口腔内
左舌側縁部にび慢性の腫脹を認める。

写真3 病理組織学的所見
多数の成熟脂肪細胞と紡錘形細胞が混在し、腫瘍細胞間は粘液基質と錯走する膠原線維からなる (HE 染色, 強拡大)

写真2 病理組織学的所見
腫瘍は菲薄な線維性被膜に囲まれ、周囲組織と癒着なく、境界明瞭である (HE 染色, 弱拡大)

写真4 電顕所見
紡錘形細胞は長楕円形の核を有し、胞体内に比較的よく発達した粗面小胞体を認める。

病理組織学的所見：摘出標本の弱拡大像では、腫瘍は菲薄な線維性被膜に囲まれ、周囲組織との境界は明瞭であった (写真2)。強拡大像では、腫瘍は多数の成熟した脂肪細胞を主体としていたが、部分的に紡錘形細胞からなる領域が混在していた。また、肥満細胞が散在性に認められた。腫瘍細胞間は、粘液基質と錯走する膠原線維からなっていた (写真3)。

電顕所見：紡錘形細胞は長楕円形の核を有し、胞体内には比較的よく発達した粗面小胞体を認めた。紡錘形細胞と脂肪細胞の間には、膠原線維束を認めた (写真4)。

考 察

紡錘細胞脂肪腫は、1975年に Enzinger と Harvey¹⁾ によって提唱された脂肪腫の特殊型である。臨床的には50歳

以上の男性に圧倒的に多く、肩部や背部、頸部に発生し、四肢や口腔内にはまれである。多発例の報告はなく、予後は良好で局所切除のみで再発はないとされている^{10, 11)}。

組織学的には、成熟脂肪細胞と紡錘形細胞の混在ならびに膠原線維の増生と粘液基質を伴う像を特徴とし、血管成分は一般に乏しいとされている¹⁰⁾。成熟脂肪細胞と紡錘形細胞との量的な割合や分布状態は症例により異なり、基質の膠原線維と粘液基質の量もさまざまである。したがって、線維肉腫様の像を呈するものから、粘液腫様のものまでみられ、本腫瘍の診断に際しては前述の特異な組織象が重要である。

鑑別診断として、脂肪肉腫、線維脂肪腫および多形性脂肪腫があげられる。脂肪肉腫と比較して本腫瘍では、紡錘形細胞に異型性がみられず、脂肪芽細胞を認めないことから鑑別される。線維脂肪腫と比較して本腫瘍では、密に錯走する膠原線維束が認められないことより鑑別される。また、多形性脂肪腫との比較においては、成熟脂肪細胞に混じってみられる花冠状多核巨細胞や異型巨細胞が存在しないことから鑑別される。

本腫瘍の口腔内での発生の報告は現在までに9例^{2~9)}が報告されているにすぎない。その内訳は、頬粘膜が4例、口底および舌が各2例、口蓋が1例で、年齢別では20歳台、30歳台、40歳台、60歳台が各1例、50歳台が3例、70歳台が2例と50歳以上が半数以上を占めていた。性別では、男性5例、女性4例であった。臨床所見では、全例無痛性の腫瘍を呈していた。

本症例は、左舌側縁部に無痛性の腫瘍を2個認め、その発生部位および数からみて非常にまれな症例と思われた。組織学的には、本症例においても、成熟脂肪細胞の間に多数の紡錘形細胞が混在し、腫瘍細胞間に粘液基質と錯走する膠原線維を認め、他の報告例と同様の所見であった。

電顕所見に関しては、紡錘形細胞の細胞質内によく発達した粗面小胞体やゴルジ野が認められるほか、豊富なマイクロフィラメントがしばしば束状となって胞体内全体に分布するといわれている¹²⁾。本症例においても紡錘形細胞内に比較的よく発達した粗面小胞体がみられ、細胞間には膠原線維束を認めた。

現在までのところ、紡錘形細胞の細胞起源は明らかにされていないが、Enzinger¹⁾らは細胞の形態ならびに間質に豊富に膠原線維がみられることから、線維芽細胞ないしそれに近い細胞であろうと推論している。また、Angervall¹³⁾やKitano¹⁴⁾らは、紡錘細胞脂肪腫が線維芽細胞様細胞と分化した脂肪細胞からなることから、その起源として間葉系細胞をあげている。

今回の症例においても、電顕像で従来の報告と同様の所見を認め、線維芽細胞ないしそれに近い細胞であることが示唆された。しかしながら、細胞の正確な起源については、さらに症例を増やして検索する必要がある。

結 語

今回われわれは、舌に発生した紡錘細胞脂肪腫について臨床的、病理組織学的に検索し文献的考察も含め報告した。

本論文の要旨は第43回日本口腔外科学会総会（1998年10月7日、松本）にて発表した。

引 用 文 献

- 1) Enzinger, F.M. and Harvey, D.A.: Spindle cell lipoma. *Cancer* 36: 1852-1859 1975.
- 2) Tosios, K., Papanicolaou, S.I., et al.: Spindle cell lipoma of the oral cavity. *Int J Oral Maxillofac Surg* 24: 363-364 1995.
- 3) McDaniel, R.K., Newland, J.R., et al.: Intraoral spindle cell lipoma: case report with correlated light and electron microscopy. *Oral Surg* 57: 52-57 1984.
- 4) Christopoulos, P., Nicolatou, O., et al.: Oral spindle cell lipoma: report of a case. *Int J Oral Maxillofac Surg* 18: 208-209 1989.
- 5) Khoo, S.P. and Lian, C.B.: Intraoral spindle-cell lipoma: report of a case and literature review. *Ann-Dent* 54: 53-55 1995.
- 6) Piattelli, A., Fioroni, M., et al.: Spindle cell lipoma of the oral cavity: report of a case. *J Oral Maxillofac Surg* 57: 624-625 1999.
- 7) Lombardi, T. and Odell, E.W.: Spindle cell lipoma of the oral cavity: report of a case. *J Oral Pathol Med* 23: 237-239 1994.
- 8) Levy, F.E. and Goding, G.S.: Spindle cell lipoma: an unusual oral presentation. *Otolaryngol Head Neck Surg* 101: 601-603 1989.
- 9) 山懸憲司, 鬼澤浩司郎, 他: 頬部に生じた紡錘細胞脂肪腫の1例. *日口外誌* 45: 838-840 1999.
- 10) 伊藤正博, 津田揚夫: 粘液様変化が著しい Spindle cell lipoma の1例. *癌の臨床* 31: 217-221 1985.
- 11) 中西純夫, 稲葉博司, 他: Spindle cell lipoma の2例. *癌の臨床* 29: 268-272 1983.
- 12) 渡辺 威, 岡田雄平, 他: 紡錘形細胞脂肪腫 (Spindle cell lipoma) の電顕像, 愛媛県, 臨床検査技師会誌11号: 39-43 1991.
- 13) Angervall, L., Dahl, I., et al.: Spindle cell lipoma. *Acta Pathol microbiol scand sect A* 84: 477-487 1976.
- 14) Kitano, M., Enjoji, M., et al.: Spindle cell lipoma. *Acta Pathol Jpn* 29: 891-899 1979.